

## 「行動が変われば、結果が変わる！」

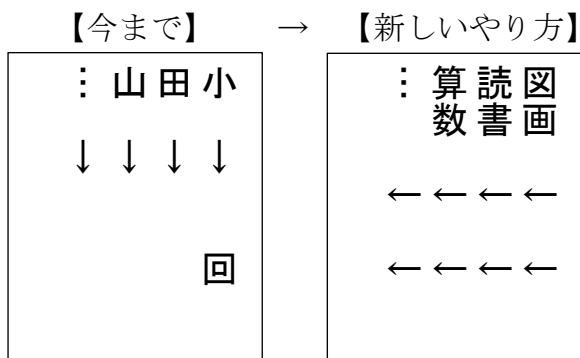
校長

新年度が始まりました。新 1 年生 68 名を迎え、全校 481 名でのスタートです。子どもたちと共に、私たち教職員 35 名も、日々努力をしていきます。どうぞ、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

始業式で、子どもたちに次のような話をしました。

-----  
これから、私が言いたいことは何か？考えながら聞いてください。

ある小学生が、漢字テストで 100 点を取りたいと思っていたのですが、なかなか取れなくて悩んでいました。そこで、先生に「ぼくは、必ず 10 回ずつ練習しているんだけど、なかなか 100 点が取れません。どうやったら 100 点を取れますか」と尋ねました。すると先生は、「二つあります。一つは、今より練習回数を増やすこと。もう一つは、練習のやり方を変えること」と教えてくれました。回数はみんなと同じくらいにやっていたので、やり方を変えようと思いました。そこで、教えてもらったのが下のやり方です。



一文字につき 10 回ずつ練習したのです

が、見事 100 点を取れることが多くなりました。

ある高校生のお話です。バスケットボール部に入っていました。背があまり高くなかったのもっともっとジャンプ力をつけて、背の高い人たちに勝ちたいと思いました。ジャンプ力はどうすればつくのか？チーム練習をしても、ジャンプ力がつく練習などあまりできません。調べてみたら足首を鍛える、ふくらはぎを鍛えるのがよいと知りました。そこで、通学のバスで約 30 分間、ずっとつま先立ちをすることにしました。1 年間続けたらジャンプ力がつきました。なわ跳びの 3 重跳びも楽々跳べるようになりました。

さて、私が言いたかったことは、どんなことでしょうか。

それは、目標を決めてもそれだけでは不十分。できるようになるためには、やり方・行動を変える。「行動が変わらなければ、結果は変わらない。行動が変われば、結果が変わる」ということです。皆さんは、どんな目標を決めて、行動をどう変えていきますか？

-----  
私たちは、子どもたちのやる気を高め、行動を変えられるように働き掛けていきます。しかし、それが成果として現れるまでには、時間がかかります。ですから、子どもたちが行動を変えたら、結果が出るまで、成果が現れるまで、その行動を「認める」「褒める」ことが欠かせません。

ある行動をしてよいことが起これば、子どもは（大人も）それを続けるはずで